

省力・低コスト稲作技術 流し込み施肥(流入施肥)

1. 技術の概要

「流し込み施肥(流入施肥)」は液体肥料または個体の肥料を溶かした肥料溶液を灌漑水と一緒に流し込む追肥法です。市販の液体肥料や肥料の溶解液を水口にセットし、吐出量を調節し、圃場全体に肥料を行き渡らせます。溶液にせず、固形肥料を水口に設置する方法もあります。

2. 技術導入のメリット

- ① 水田に入ることなく追肥ができます。また、動力散布機などを背負って追肥する必要もありません。
- ② 市販の流し込み専用肥料を使うほかに、**尿素や塩化加里を用いて安価に**流し込み施肥ができます。特に、尿素は溶解性が高く、安価であり、低コスト化に有効です。
- ③ 近年、気象変動が激しくなっていますが、その年の**気候や稲の生育に合わせて追肥**をすることができます。
- ④ 1ha以上の区画の水田でも実施されています。圃場の均平化を図ること、水口が複数あることにより、より精密に施肥することが可能です。
- ⑤ 慣行の追肥法と比較して収量、品質には差がないことが示されています



【流し込み施肥器】
(古川農試)



【コンバイン袋を用いた簡易な流し込み施肥(関谷)】



【液状の流し込み専用肥料(コブケミカル)】

3. コスト削減効果(JA全農試算)

	流し込み施肥(例)	慣行追肥
肥料	尿素・塩化加里	NK化成肥料
追肥にかかる時間*	3.3分/10a	13分/10a
肥料費(指数)	63	100
その他物財費	溶解液の流入槽 (自作も可能)	動力散布機

*古川農試(流し込み施肥:尿素24kg、慣行施肥:26kg)

4. 留意事項

- ① 流し込みのスピードが速すぎて、灌漑水が区画内に行き渡る前に肥料を施用し終わってしまうと、施肥ムラ生育ムラが生じることがあるので留意する必要があります。
- ② 圃場が均平でない場合、施肥ムラを生じることがあるので、レーザーレベラーや丁寧な代掻きを行い、均平化を図る必要があります。
- ③ 施肥量は気象や水稻の生育にあわせて決定します。

お問い合わせ先



JA全農 肥料農薬部 技術対策課

TEL.03-6271-8291 FAX.0120-771639(ナナイロサク)